

能

宇都宮能 喜多流

9月18日(月・祝)

箏曲 宇都宮海屋女子学院高等学校箏曲部
宇都宮海屋女子学院中学校箏曲部

解説 金子敬一郎

狂言 佐渡狐
美言 野村萬斎
越後の百姓 野村太郎
佐渡の百姓 石田幸雄

仕舞 松風
友枝昭世
仕舞 佐々木多門
長島 茂
粟谷明生
内田成信

休憩

能 船弁慶
シテ(新・知盛) 粟谷能夫
ツレ(若狭) 佐藤 陽
間(船頭) 内藤 連
ワキ(弁慶) 森 常好
ワキツレ(從者) 森 常太郎
大鼓 岡川 純
小鼓 船澤洋太郎

太鼓 額世元伯
言 一噌隆之
地謡 粟谷充雄
中村邦生
金子敬一郎
出雲康雅
長島 茂
友枝昭世
粟谷明生
内田成信

狂言 佐渡狐 | あらすじ

郡へ年貢を納めに出掛けた佐渡と越後の百姓が、道中偶々出会い同行の運びとなります。国向かいに位置する二人は、道中佐渡に狐が存在するかしないかで言い争いになり、自身の小刀を賭けて奏者に判定してもらおう事となります。事実、佐渡には狐がない事を承知の佐渡ノ百姓が取った行動とは・・・。

能 船弁慶 | あらすじ

平家追討に功績をあげた源義経でしたが、頼朝に疑惑を持たれ、鎌倉方から追われる身となります。義経は、弁慶や忠実な従者とともに西国へ逃れようと、摂津の国大物の浦へ到着します。義経の愛妾、静(しずか)も一行に伴って同道していましたが、女の身で困難な道のりをこれ以上進むことは難しく、弁慶の進言もあって、都に戻ることにしました。別れの宴の席で、静は舞を舞い、義経の未来を祈り、再会を願いながら、涙にくれて義経を見送ります。静との別れを惜しみ、出発をためらう義経に、弁慶は強引に船出を命じます。すると、船が海上に出るや否や、突然暴風に見舞われ、波の上に、坂ノ浦で滅亡した平家一門の亡霊が姿を現しました。なかでも総大将であった平知盛(とももり)の怨霊は、是が非でも義経を海底に沈めようと、薙刀を振りかざして襲いかかります。弁慶は、数珠をもみ、必死に五大尊明王に祈祷します。その祈りの力によって、明け方に怨霊は調伏されて彼方の沖に消え、白波ばかりが残りました。



舞臺子 屋島 赤羽奈那
(宇都宮市在住、東京藝術大学在学)

解説 津村聡子

観世流公演
9月16日(土)

狂言 素襖落
シテ(太郎殿) アド(主人) 山本東次郎 山本則孝
アド(伯父) 山本則俊

能 石橋 大橋子
舞シテ(童子) 坂井音重
舞シテ(白鶴子) 坂井音隆
ワキ(森田法師) 福王和幸
ワキ(赤獅子) 坂井音晴

箏曲 栃木県立鹿沼南工高等学校日本音楽部
宇都宮市立石井小学校こど部

解説 安久都和夫(栃木県立生体音楽)

宝生流公演
9月17日(日)

狂言 蝸牛
山伏 野村萬斎
主 飯田 豪
見立 月崎晴夫
太郎冠者 石田幸雄

能 小鍛冶
舞シテ(稲荷明神) 宝生和英
舞シテ(童子) 田崎隆三
ワキ(三善小鍛冶宗近) 野口敦弘
ワキツレ(神近成) 野口能弘

箏曲 宇都宮海屋女子学院高等学校箏曲部
宇都宮海屋女子学院中学校箏曲部

解説 金子敬一郎

喜多流公演
9月18日(月・祝)

狂言 佐渡狐
美言 野村萬斎
越後の百姓 野村太郎
佐渡の百姓 石田幸雄

能 船弁慶
シテ(新・知盛) 粟谷能夫
ツレ(若狭) 佐藤 陽
間(船頭) 内藤 連
ワキ(弁慶) 森 常好
ワキツレ(從者) 森 常太郎

三流

宇都宮市文化会館リニューアルオープン記念
宇都宮能 三流派公演
会場 宇都宮市文化会館 大ホール
全公演 13時開演(12時開場)

5月6日(土) 発売開始・全席自由

入場料: [3公演分] 7,000円 / [単券] 各3,000円 / [ファミリー券] 各5,000円 (大人2名、高校生以下3名まで整理券不要)
高校生以下無料(要整理券・各500名)
*整理券は文化会館プレイガイドのみお取り扱いとなります。*保護者の方とご一緒にご覧いただけます。
プレイガイド: 宇都宮市文化会館プレイガイド Tel. 028-634-6244 / FKDショッピングプラザ宇都宮店(3F) / FKDショッピングプラザ宇都宮インターパーク店(2F)
主催: 公益財団法人うつのみや文化創造財団 宇都宮市 / 宇都宮市教育委員会 共催: 栃木県謡曲連盟 後援: 栃木県 / 栃木県教育委員会
お問い合わせ: 宇都宮市文化会館 028-636-2125



宇都宮能 観世流

9月16日(土)

舞囃子 屋島 赤羽奈那 (宇都宮市在住、東京芸術大学在学) 大鼓 柿原弘和 小鼓 観世新九郎 笛 藤田次郎 地謡 藤田智子 小野栄二 中山清野 坂井音隆 坂井音晴

解説 津村聡子

仕舞 松風 中山清野 地謡 木原康太 坂井音晴 坂井音雅 木月章行

狂言 素襖落 シテ(太郎冠者) 山本東次郎 アド(主人) 山本則孝 アド(伯父) 山本則俊

休憩

能 石橋 大獅子 前シテ(童子) 坂井音重 後シテ(白獅子) 坂井音隆 フレ(赤獅子) 坂井音晴 大鼓 柿原弘和 小鼓 観世新九郎 笛 藤田次郎 太鼓 観世元伯 舞 藤田次郎

劇(仙人) 山本泰太郎 地謡 小野寺弘 岩屋稚沙子 小野栄二 木原康之 中山清野 浅井文義 古枝良子 藤波重孝

台本 木月章行 木原康太 藤田智子 赤羽奈那

見物 藤波重彦 津村聡子 坂井音雅

狂言 素襖落 | あらすじ

伊勢参宮を思い立った主人は、かねてより参詣希望のあった伯父を誘うため、太郎冠者を遣いに出します。生憎伯父には先約があって同行できないものの、折角訪ねて来た太郎冠者に門出の祝いと酒を振舞いつつ、自分の代参を頼んで引出物の素袍を託します。すっかり酔いの回った太郎冠者は、やがて支離滅裂となり……

能 石橋 | あらすじ

中国・インドの仏跡を巡る旅を続ける寂昭法師[大江定基]は、中国の清涼山(しょうりょうぜん)[現在の中国山西省]にある石橋付近に着きます。そこにひとりの樵の少年が現れ、寂昭法師と言葉を交わし、橋の向こうは文殊菩薩の浄土であること、この橋は狭く長く、深い谷に掛かり、人の容易に渡るものではないこと[仏道修行の困難を示唆]などを教えます。そして、ここで待てば奇蹟を見るだろうと告げ、姿を消します。寂昭法師が待っていると、やがて、橋の向こうから文殊の使いである獅子が現われます。香り高く咲き誇る牡丹の花に戯れ、獅子舞を舞ったのち、もとの獅子の座、すなわち文殊菩薩の乗り物に戻ります。



宇都宮能 宝生流

9月17日(日)

箏曲 栃木県立鹿沼商工高等学校日本音楽部 宇都宮市立石井小学校こぶ部

解説 安久都和夫 (栃木県宝生会会長)

仕舞 笠の段 玉の段 朝倉俊樹 地謡 佐野弘宣 野月聡 藤 克徳 田嶋 甫 前田晴啓

休憩

狂言 蝸牛 山伏 野村萬斎 主 飯田 豪 後見 月崎晴夫 太郎冠者 石田幸雄

能 小鍛冶 後シテ(稻荷明神) 宝生和英 前シテ(童子) 田嶋隆三 舞 中村修一 地謡 安久都和夫 野月聡 金森良充 前田晴啓 佐野弘宣 朝倉俊樹 藤 克徳 佐野玄宣

大鼓 亀井広忠 太鼓 観世元伯 小鼓 藤澤洋太郎 笛 藤田次郎

フキ(三條小鍛冶宗近) 野口敦弘 フキフレ(備前成) 野口能弘

見物 水上 優 田嶋 甫 朝倉大輔

狂言 蝸牛 | あらすじ

長寿の祖父にますます長生きをしてもらおうと思った主人は、長寿の薬にもなるという蝸牛(かたつむり)を召使い(太郎冠者)にとってくるよう命じます。蝸牛がどのようなものか知らない太郎冠者は、竹やぶに行けば必ずいるものだと教えられ、言われたとおりに竹やぶに着くと、そこに何者が寝ています。もしや蝸牛ではないかと思った太郎冠者は……

能 小鍛冶 | あらすじ

夢のお告げを受けた一条天皇(980~1011)の命により、勅使の橋道成は、刀匠として名高い三條小鍛冶宗近(さんじょうのこかじむねちか)のもとを訪れ、剣を打つよう命じます。宗近は、自分と同様の力を持った相鎚を打つ者がいないために打ち切れない、と訴えますが、道成は聞き入れません。進退きわまった宗近は、氏神の稻荷明神に助けを求めて参詣します。そこで宗近は、不思議な少年に声をかけられます。少年は、剣の威徳を称える中国の故事や日本武尊(やまとたけるのみこと)の物語を語り、宗近を励まし、相鎚を勤めようと約束して稻荷山に消えていきました。

家に帰った宗近が身支度をすませて鍛冶壇に上がり、礼拝していると稻荷明神のご神体が狐の精霊の姿で現れ、「相鎚を勤める」と告げます。先ほどの少年は、稻荷明神の化身だったのです。明神の相鎚を得た宗近は、無事に剣を鍛え上げました。こうして表には「小鍛冶宗近」の銘、裏にはご神体が弟子を勤めた証の「小狐」の銘という、ふたつの銘が刻まれた名剣「小狐丸」が出来上がったのです。明神は小狐丸を勅使に捧げた後、雲に乗って稻荷の峯に帰っていきました。



撮影：高江野平

撮影：高江野平